

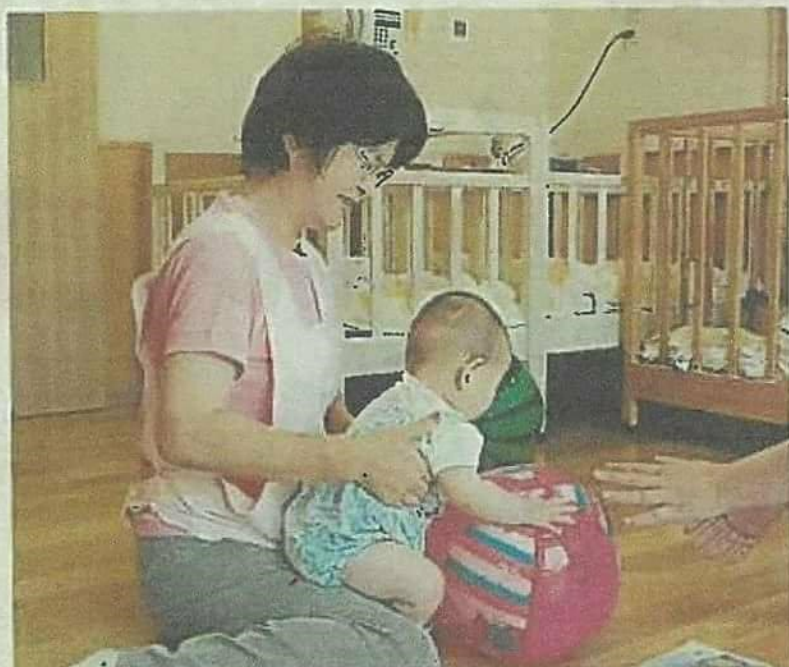
# とぎゅっ抱きぬく

## 親子で暮らせぬ子抱っこするボランティア

親の病気や虐待などの事情で、親子で暮らせない乳幼児を抱っこするボランティア活動を続けている人たちがいる。ギョッと抱きしめることで、子どもたちにもぬくもりや安心感を伝えるのが活動の目的だ。

「うーうー」。生後7カ月の赤ちゃんがピンク色のビーチボールに手を突き出した。赤ちゃんを抱く河本美津子さん(60)は「きれいなピンクだね」と優しく声を掛けた。

河本さんは乳児院や児童養護施設を訪れ、子どもを抱っこする活動をしている一般社団法人「ぐるーん」のメンバーだ。8月上旬、旭川乳児院(岡山市北区祇園)を訪れていた。



旭川乳児院を訪れ、赤ちゃんと遊ぶ河本美津子さん＝岡山市北区祇園

県内唯一の乳児院で、親子で暮らせない乳幼児を受け入れている。この日は生後1カ月から2歳の16人がいた。河本さんは4人が共同生活する部屋で、女性職員と一緒に子どもと遊んだり、抱っこしたりして数時間を経過した。職員は「一人肌が触れるだけで子どもは落ち着く。助かります」。ぐるーんの活動は、2011年に神奈川県で始まった。岡山市在住の河本さんは12年にネットで活動を知ってメンバーに加わった。今は団体の代表理事だ。活動は子どもたちと関係築くため、月2回以上施設を訪れるのが原則だ。子どもの家庭環境などは聞かず、個人情報に関わることは施設外で他言しない。「子どもと時間と体験を

## 県内400人登録 安心伝える

共有する中で、存在自体をいとおしむことが『抱っこ』だとメンバーに伝えていきます」と河本さん。

「ぐるーん」のメンバーとして全国で約1200人が登録しているが、このうち県内は約400人。県内最初のメンバーだった河本さんが中心になり、新聞やラジオで広報活動を通じて、今では都道府県で最も登録者が多いという。子育てが落ち着いた女性を中心に、男性や学生の参加も増えている。

抱っこ活動を通し、家庭での養育が難しい子どもを、一時的に預かり、実親に代わって自宅で養育する「里親制度」への関心や理解を高めてもらうのも団体の目的の一つだ。メンバーの中にも里親として自治体に登録している人がいる。昨年度から岡山市と協力し、施設の子どもの交流事業などにも力を入れている。

県によると4月時点でのおむね18歳までの子ども約

4200人が県内の乳児院児童養護施設で暮らす。

河本さんは「ぬくもりが必要としている子はたくさんいる。『自分を大切にしてくれる人がいる』という実感を一度でも多くの子どもたちに抱いてほしい」と話している。

(国米あんなが)

### 里親制度体験 7日に聞く会

「ぐるーん」は7日に親制度について児童養護施設の出身者や里親体験者ら話を聞くフォーラムを山ふれあいセンター(中桑野)で開く。不登校の経験などを曲にしているミュージシャン、悠々ホルンの演奏や講演もある。料。定員80人で申し込み5日までに([info@grn.or.jp](mailto:info@grn.or.jp))か河本さん(0079777-2521)へ。抱っこ活動の参加、援についてはホームページ(<https://www.grun.or.jp/>)。